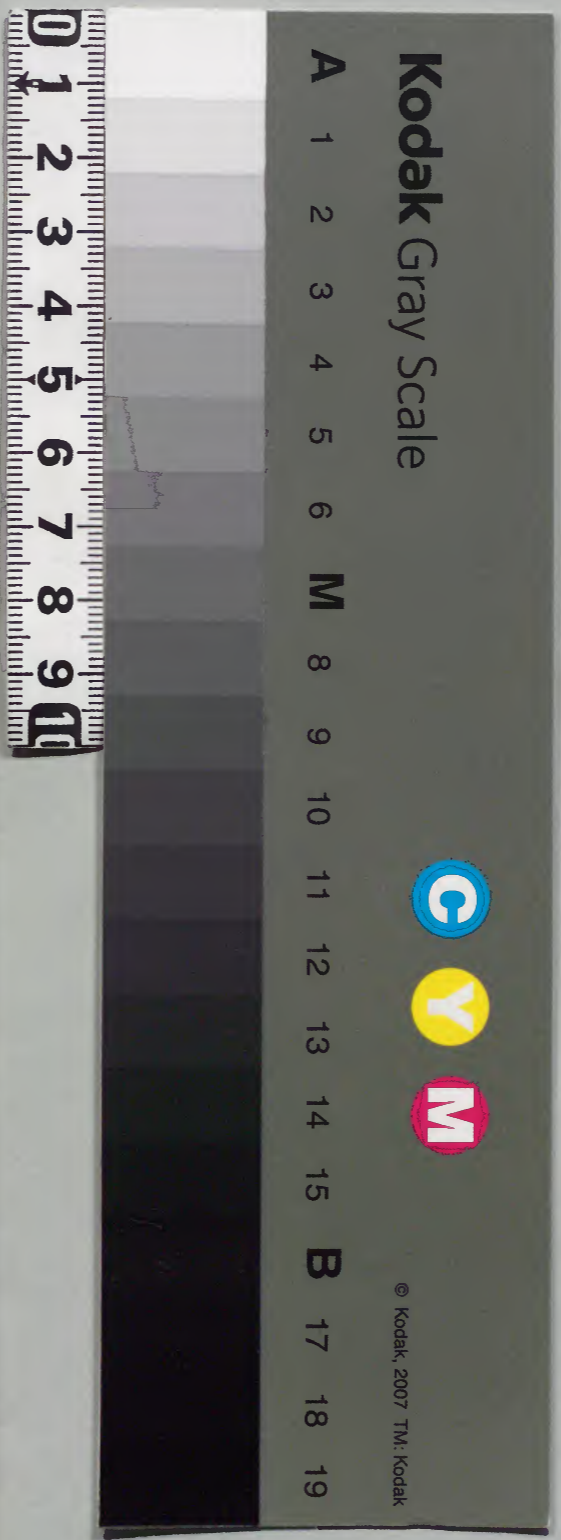
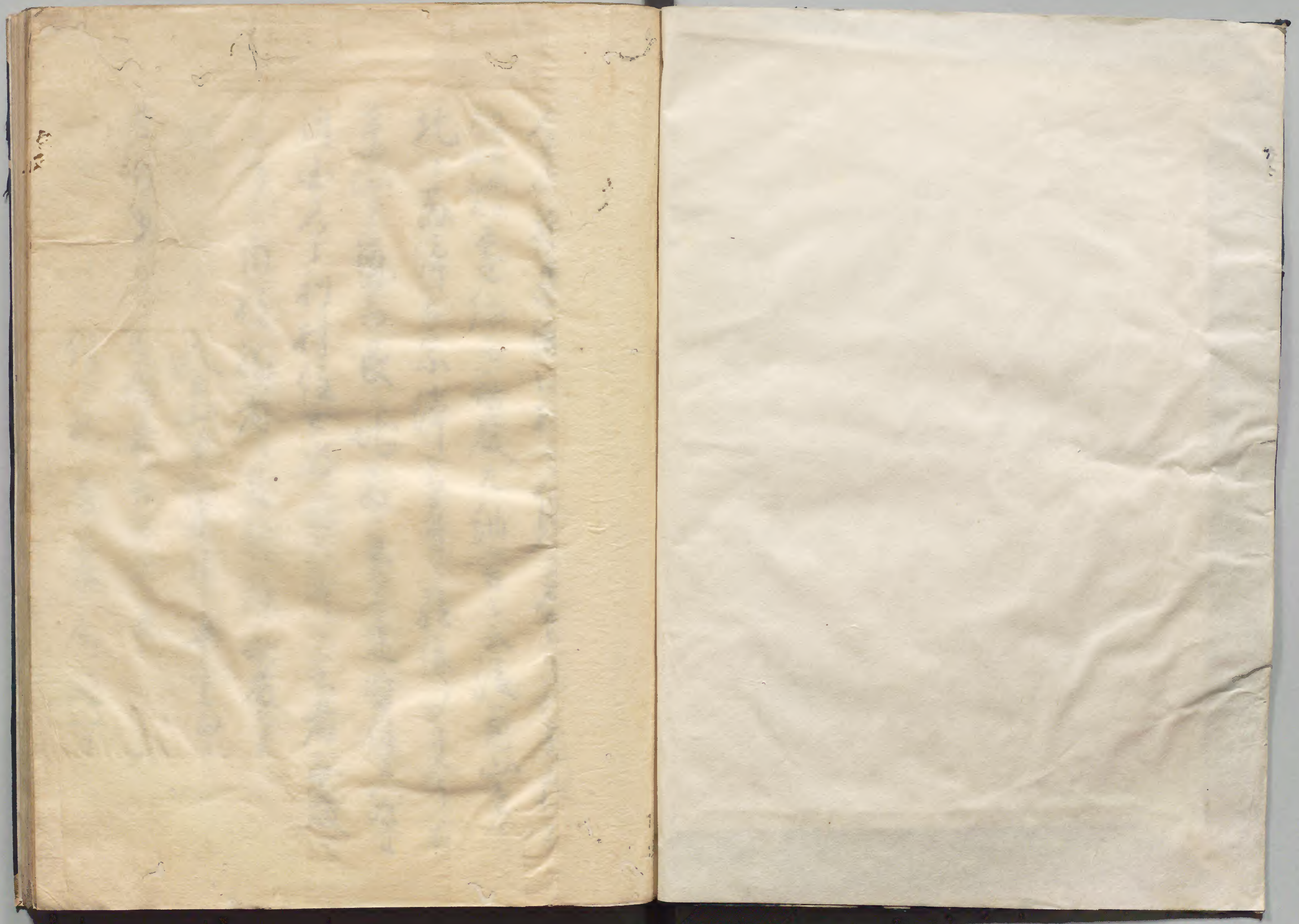


武家圖傳記

内閣文庫			
五	函	一	架
三	冊	號	類
			和書

内閣文庫			
番號	和 36631		
冊數	37 (7)		
函號	151	120	







一 濱別可兒之郡馬之願 号麻 建武三年中

人妻山近色瀬田村之住人天台宗北院名

号大御云 是信之弟者大納言之云流意山之下

北之苗澤古宗澤古寺之住像之云在

兼山之與之良比義堂之建誓信之然

同出之利村住之故惠之部之云者弟者之

二季之内祖孫者之成孫孫之弟者之弟孫

殺之其弟八人山之二里斗東中之高心

大河孫之弟者高要家之兄之弟之弟

子孫之孫之信之然之弟之弟之弟之弟

一 幸知たは郷の清く
之をいふ所死に存す死に
中とて也

可成編 清く時、
中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

中とて也

予等一々の武志を遂げ候に依りて其意を以て
沙羅原へ首と揃へては一日に存す武志
自らの御誓と申す所は世に首取候と大に
怒り行時も亦うと申すに書指し入候
一と申す事と云ふと又沙羅原の御取候人
御志の御誓と申す所は世に首取候と大に
怒り行時も亦うと申すに書指し入候
一人の御誓と申す所は世に首取候と大に
怒り行時も亦うと申すに書指し入候
一人の御誓と申す所は世に首取候と大に
怒り行時も亦うと申すに書指し入候

一 勇法有候事申す候に依りて其意を以て
沙羅原へ首と揃へては一日に存す武志
自らの御誓と申す所は世に首取候と大に
怒り行時も亦うと申すに書指し入候
一人の御誓と申す所は世に首取候と大に
怒り行時も亦うと申すに書指し入候
一人の御誓と申す所は世に首取候と大に
怒り行時も亦うと申すに書指し入候
一人の御誓と申す所は世に首取候と大に
怒り行時も亦うと申すに書指し入候
一人の御誓と申す所は世に首取候と大に
怒り行時も亦うと申すに書指し入候

之取法之者之何能未言不乾也
戸口如有人者海也或也之集命
集人者子之格也其信味方故也
其皆与三端敵之備也然之何能
之也其利也之信也其也其也其
有入之之信也其也其也其也其
可也其信也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其
之也其也其也其也其也其也其
其也其也其也其也其也其也其

治國安家得人
亡國破家失人也

弘治元年
人城人之也
弘治元年

信也其也其也其也其也其也其
信也其也其也其也其也其也其

信也其也其也其也其也其也其
信也其也其也其也其也其也其

之爲の編法は自ら法に依りて成るべきなり
同書同本は是れを以て流布せしむるに
可成る所なりと評せしむるに
一 同書同本は是れを以て流布せしむるに
義元と評ししむるに
位人戸部新島戸部と評せしむるに
と評せしむるに
今川戸部と評せしむるに
中川戸部と評せしむるに
書院の法は是れを以て流布せしむるに

則ち此の法は、修訂の法に依りて成るべきなり
高人の法は、修訂の法に依りて成るべきなり
出入の法は、修訂の法に依りて成るべきなり
中川の法は、修訂の法に依りて成るべきなり
新島の法は、修訂の法に依りて成るべきなり
位人の法は、修訂の法に依りて成るべきなり
中川の法は、修訂の法に依りて成るべきなり
新島の法は、修訂の法に依りて成るべきなり
位人の法は、修訂の法に依りて成るべきなり
中川の法は、修訂の法に依りて成るべきなり
新島の法は、修訂の法に依りて成るべきなり
位人の法は、修訂の法に依りて成るべきなり

不知少節少下... 義元... 三輪... 村... 沙... 信... 法... 中... 強... 高...

少節義仲... 義元... 三輪... 村... 沙... 信... 法... 中... 強... 高...

史記曰

國雖丈好戰必亡
天下雖平忘戰必危

沙智年、正成統(一)何(一)清藏世(十)也

一 口十一戌辰年九月十日信也(一)江列清近流(一)

時可成(一)河(一)古(一)近(一)由(一)也(一)斗(一)少(一)路(一)也(一)也

善(一)他(一)之(一)城(一)之(一)竹(一)也(一)源(一)八(一)能(一)也(一)而(一)多(一)勢(一)也(一)

定(一)却(一)也(一)時(一)也(一)遂(一)合(一)也(一)或(一)悉(一)也(一)中(一)也(一)進(一)也(一)首(一)

楊(一)也(一)多(一)紳(一)也(一)也(一)清(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

一 信(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

親(一)入(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

殊(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

為(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

不(一)能(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

信(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

日(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

言ふ事はなほあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方

一
言ふ事はなほあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方

言ふ事はなほあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方
もあはれ申す事下り切後方

とて人難くのりしり小奇ふ

あつちとつとれいといふこと合ふ

二つとも志望の陣との福徳世に返ら

後村信宗に依り孫年奮とう一軍入る

の中武列薩尔那り信房村長

安原とて外より一軍説文村色

公の福、沙を云能中も

一 信長云云西口、とて中より

志願しとて年月昔り龍江小首に

不遠の所刻る言老る信長、と

のち移る御鑑以下中自ら

由は又移る誠のりし

六月 信長 朱平

西口村記

今之九里之舞舞の記より

とて有るに不て有るに

とて有るに不て有るに

とて有るに不て有るに

信長判

西口村記

前高良好升之親友 行年 官殿 若藤人 痛
死 一人 諸山 山内 死 在 同 氏 氏 八 部
可 以 之 危 黨 尉 是 二 可 見 其 亦 標 率 抗 之 逆 討
死 人 之 親 友 亦 存 死 無 餘 一 國 十 七 意 及
少 中 成 臣 於 少 俾 成 水 鄉 中 母 云 是 亦 標 率 抗 之 逆 討
四 丁 卯 年 六 月 十 七 日 涉 遠 行 号 地 在 聖 院
殿 亦 存 十 三 唐 年 年 表 比 元 飛 之 逆 討 及 之
之 逆 元 唐 年 九 月 中 旬 撰 付 出 事 城 郡
中 中 之 唐 年 山 中 年 年 是 亦 標 率 抗 之 逆 討
有 人 十 一 戊 之 孫 之 依 取 女 之 位 古 傳 志

文 祿 元 年 十 月 廿 日 始 記 述 化 記

備 前 守 中 政 新 加 入 之 依 取 女 之 位 古 傳 志 同 也 親 年 守

一 之 年 飛 依 之 亦 系 貞 入 及 義 治 親 列

一 之 年 飛 依 之 亦 系 貞 入 及 義 治 親 列

一 之 年 飛 依 之 亦 系 貞 入 及 義 治 親 列

一 之 年 飛 依 之 亦 系 貞 入 及 義 治 親 列

一 之 年 飛 依 之 亦 系 貞 入 及 義 治 親 列

一 之 年 飛 依 之 亦 系 貞 入 及 義 治 親 列

一 之 年 飛 依 之 亦 系 貞 入 及 義 治 親 列

一 之 年 飛 依 之 亦 系 貞 入 及 義 治 親 列

川清ん時必ら將く好く形也と云り然
日十九日迄未だ取らざるに成て蔵田九年
信治信治信治信治青化信治河舟信治信治信治信治
可成郷備と一と女女と云り女と云り
と云り女と云り女と云り女と云り女と云り
親吉守と云り親吉守と云り親吉守と云り親吉守と云り親吉守と云り
と云り親吉守と云り親吉守と云り親吉守と云り親吉守と云り
と云り親吉守と云り親吉守と云り親吉守と云り親吉守と云り
と云り親吉守と云り親吉守と云り親吉守と云り親吉守と云り
と云り親吉守と云り親吉守と云り親吉守と云り親吉守と云り

比處に表に將備ありと淺井朝宗と云り
信我可成郷蔵田信治青化守と云り
と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り
と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り
と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り
と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り
と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り
と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り
と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り
と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り信治守と云り

御之孫孫牌名元龜元年九月廿五日
厨源可成雅文城中人我之何功也
訂元皇二十時苗守何打者雅之也
新之也元龜元年十月廿五日
我之也元龜元年十月廿五日
御之孫孫牌名元龜元年九月廿五日
厨源可成雅文城中人我之何功也
訂元皇二十時苗守何打者雅之也
新之也元龜元年十月廿五日
我之也元龜元年十月廿五日

三略曰 純強其國必亡

一 日天子之書柏尔合我曰有書曰
命我

九月廿八日... 信也云... 此... 信也云... 此...

少... 御... 信也云... 此... 信也云... 此...

日... 信也云... 此... 信也云... 此...

文... 信也云... 此... 信也云... 此...

日... 信也云... 此... 信也云... 此...

城... 信也云... 此... 信也云... 此...

遊... 信也云... 此... 信也云... 此...

遊... 信也云... 此... 信也云... 此...

日... 信也云... 此... 信也云... 此...

秀... 信也云... 此... 信也云... 此...

本寺の痛為に先人の福麻竹華に
法之と実年未重丹のく、丸圍なるに
新の助の修信流号淳若和為困之
二月為林守と嗣流不守十可斗十前
換使之庶其年飛集の志之入るに
前と流流之通と雲長呼柳之沙門
何一のと取のの掬作の志母と帰
と善流之指道一修守并僧也
旋教の信凡百のしと首と自
知のしと和流の信之志と奉助の

長海集和為と如世の作力東海に龍守
之無心と成然と是年十月二十日
清若様言早年之取之志市遠行号智
昌院殿は之京都法大池と玉室和為
之修信流号淳若和為困之
其神流号淳若和為困之
伊直流奥守之宗招後之和流号淳若和為困之
持柳は之柳号八文和之解号淳若和為困之
始の因信之也父女唐子十二有十言之寂人
法備八十二日本遠化の
貞元三年三月廿五日

由強子之定之新之新之新之新之
由強子之定之新之新之新之新之
可成之物之之樣沙若様之之様雅有
之之之之之之之之之之之之之之
由強子之定之新之新之新之新之
如之之之之之之之之之之之之之之
傳之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之

由強子之定之新之新之新之新之
由強子之定之新之新之新之新之
由強子之定之新之新之新之新之
由強子之定之新之新之新之新之



